

特別授業で豊かな心を学ぶ、 自立心をはぐくむ



「どんなときでも、フレッシュな教育を行いたい」と、相生学院高校 明石校の尾池良一校長。地域貢献事業を精力的に行ってきた同校で活躍する生徒たちについて、そして尾池校長が教育に注ぐ思いについてうかがいました。

相生学院高等学校 明石校

尾池 良一 校長

地域への貢献活動から自立心を育てる

相生学院高校では、月・水・金に個別対応講習という授業をして勉強の基礎をしっかりと固め、そのほかの曜日には特別授業を行っています。日常的で、もう私や生徒の間では“特別”に感じなくなってきたほどたくさんの活動をしています。

この特別授業では、和歌山の被災地で流木撤去のボランティア活動をしたり、今年の1月には明石地域の神社と共催して、“掃き初め式・書き初め式”を行いました。掃き初め式では学校周辺から神社までの清掃活動を行いました。書き初め式では、まず教員が「人生を開く」、「幸せが開く」という意味をこめて「開」という字をとっても大きな紙に書きました。それに添うように生徒たちも思い思いの字を書きました。式の最中はみんな活き活きとして生徒と教員が気持ちを一つにして楽しむことができました。この学校が

こうした特別授業に多く取り込んでいるのは、生徒一人ひとりの豊かな心を育むためです。今の子どもたちは、心も体も塞いでいる子どもがとて多いです。そうした子たちの心を開くには、特別授業など、楽しい体験を通して経験を積ませることが大切です。そこでコミュニケーションの取り方、生きていく楽しさ、自立する大切さを学んでもらうことだと思っています。また保護者と先生が力を合わせるきっかけにもなります。こういった、先生や保護者のバックアップが整うことは子どもたちの自立心が芽生えるきっかけになるんです。

国際的にコミュニケーションを取っていける力も必要だと考えていて英会話の授業も力を入れています。この間の授業では、まず生徒が日本語で話し、ネイティブの先生が英語で話します。すると、次は生徒が英語で話して、ネイティブの先生が日本語で話すという交代で話していく方法で授業を行いました。これはとても厳しい練習ですが、一